

## 第 5 回及び第 6 回地域医療構想調整会議等の開催状況

## 1 前回の医療審議会（28.7.5）からの経緯

< 第 5 回地域医療構想調整会議及び県保健医療計画推進会議（6～7月） >

- ・ 構想（素案）について議論した

< パブリックコメント >

- ・ 7月15日～8月15日で実施（意見提出件数：211件）

< 第 6 回地域医療構想調整会議及び県保健医療計画推進会議（9月～10月） >

- ・ 構想（案）について議論し、了承された。

## 2 地域別の主な意見

地域	時期	第 5 回及び第 6 回会議での主な意見
横浜	6月9日 9月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推計結果を鵜呑みにするのではなく、今後も医療・介護に関する様々なデータを見ながら病床整備を進める必要がある</li> <li>・ 地域医療介護総合確保基金は、県全体の課題解決に寄与するものだけでなく、特定の地域の課題解決に向けた事業についても配分すべき</li> </ul>
川崎	7月6日 9月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回復期や慢性期を中心に不足することになっているが、本当に不足するのか検証が必要。病床機能報告制度は病棟単位での報告になっており、病床単位での報告ができるように模索していくべき</li> <li>・ 病床機能の転換に向けた施策の検討に当たっては、地域住民の負担軽減の視点も持ちながら実効性のある施策を行う必要がある</li> </ul>
相模原	6月20日 10月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小児や周産期の医療提供体制の構築に当たっては、医療需要の減少ありきではなく、地域で産み、育てる環境整備を推進する視点で考えるべきである</li> <li>・ 地域医療構想の推進に向けた具体的な取組みを検討する場が調整会議だけでよいのか疑問</li> </ul>
横須賀・三浦	6月30日 9月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の救急医療提供体制は円滑に運用されている。これを今後も維持していくことが必要</li> <li>・ 地域医療構想そのものを知らない医療関係者が多い。医療関係者への普及啓発が必要</li> </ul>
湘南東部	6月22日 9月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 増床だけでなく、病床稼働率向上は、重要な課題であるため具体的な方法などについて今後検討していくことが必要である</li> <li>・ 地域や医療機関の自主的な取組みで地域医療構想を推進できるのか不安である</li> </ul>
湘南西部	6月27日 9月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調整会議だけでなく、メンバーを絞った形でのワーキンググループなどを立ち上げ、こまめに情報交換を行う必要がある</li> <li>・ 病床協議の際に、地域で過剰な機能区分への新設の公募があった場合、どのように対応するのか検討する必要がある</li> </ul>

<p>県央</p>	<p>6月16日 9月15日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療提供状況だけでなく、外国人の居住割合など地域特性を示すデータも構想に盛り込むべき</li> <li>・県央地域は、4つのエリアで二次救急対応をしているが、地域医療構想のとおり医療需要が変化するのであれば、二次救急エリアの広域化に向けた検討も必要になる可能性がある。地域医療構想策定後も引き続き、地域の医療提供体制をどのように構築していくかを議論することが重要</li> </ul>
<p>県西</p>	<p>6月17日 9月16日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推計上、過剰とされている高度急性期や急性期であっても地域にとって必要なものであれば、今後も維持・確保していくべき</li> <li>・自己完結率が高いという地域特性を今後も維持すべきで、そのことを構想に盛り込むべき</li> </ul>

(以上)